

衣服の色の好みと感じ

岩 切 羊 子

私達が日常目にふれるすべてのもので、一つとして色のないものはなく、とりわけ目にこころよい美しい色の数々がどんなに私達の生活に、うるおいと豊かさを与えてくれていることであろうか。

果物やの店先には、春はいちご、夏はもも、ぶどう、秋はなし冬はりんご、みかんと季節によつての彩りがあり、街路の春は、柳桜をこきまぜてと古今集の歌にあるような美しさを表わし、夏は緑したる谷川の涼しさを感じさせ、秋は紅葉の錦を織りなし冬は枯枝に鳥のとまる強い配色で街も、野も、店も、季節の色を美しく表わしているが、これら自然の美しさは勿論のこと、生活の中の色彩をもわたくしたちは、讚美してきている。原始民族も衣服の形態をつくりあげる前に色彩によつて身体を飾り、色彩の美を堪能している。このように色彩に対する欲求、色彩をもつて飾るということは、人間の本能的なものだつたようである。

誰でも色を感じることが出来る。そしてよく「私はこの色が嫌だ」とか或は「私はあの色が好きだ」といったような言葉で色を選んでいるが、衣服の色の選び方は、主として心理学的な作用に

よるが、その人の性格、年令差、性別、環境、地域、教養などが遂にすぎ、きらいとなつて現われたものであろう。

日本人には日本人の性格が、ドイツ人にはドイツ人的、性格がフランス人にはフランス人的の性格が、それぞれ色に現われてくるとみてもさしつかえないようである。ドイツではどんな地方へ行つてもドイツ人らしい青緑の色調が帽子や服色に取り入れられているのが目につくのだそうでこれに反して、フランスへ行くと明るい空色とピンクの取り合せが目立ち、何となくフランス人の軽快な明るさは、色そのものから生れ出てくるような気さえするぐらいだという。歐洲をみた眼で、アメリカをみると、派手な色調が服色を支配して、如何にも植民地らしい新傾向好みの、と云つた現代的な思潮が表われている気がする。日本でも東京はどちらかといえば、歐洲的な感じの色調であり、関西特に神戸などはアメリカ的な派手な服色が多くみうけられる。同じ東洋民族でも、中国人の色と日本人のそれとは、格段の差があるようで、一は大陸的な風土の關係が原因し、一は島国的自然の影響をうけていることであるらしい。殊に不思議なことは、北欧のストックホル

ムへ行くと婦人は好んで、赤色を服色に多く取りいれており、赤のストッキングや、赤と緑の縞のエプロンなどが見受けられ、ソ聯のシベリアの農民の婦人なども赤を好む傾向があり、恰も南方種族や、雲南省、貴州省地方の農民と同じような系統好みと似通った点があるということである。

ここで、衣服にとりいれられている色の嗜好について心理学的に研究された結果を資料によつてみてみると次のような各表が挙げられる。

第一表

実験者 女子大学生一七四名
試料色一三 宮下氏調査

順位	票数	試料色
5	16	青 緑
4	17	青 橙
9	10	白 茶
3	19	淡 緑
11	9	ク リ ム
1	26	カ ー キ
12	4	暗 緑
10	10	暗 青
6	15	緑 淡
2	20	濃 紫
7	15	濃 紫
8	13	灰

第二表

実験者 男子大学生 九三名
試料色二十 森田氏調査

順位	%	No.	試料色
7	6.5	1	黄 橙
4	9.8	2	赤 茶
11	2.7	3	赤 緑
2	15.2	4	黄 緑
9	4.3	5	黄 茶
6	7.6	6	緑 緑
15	1.1	7	暗 緑
8	5.4	8	暗 青
3	10.9	9	暗 青
1	17.4	10	青
5	7.6	11	紫 藍
12	2.7	12	藍 黄
10	3.3	13	暗 茶
0	0	14	茶 紫
16	1.1	15	赤 紫
0	0	16	赤 紫
13	2.7	17	赤 紫
14	2.7	18	赤 紫
0	0	19	赤 紫
17	1.1	20	赤

この結果、若い女子大学生はクリーム(1)、淡紫(2)、白茶(3)、青(4)、青緑(5)、緑青(6)、濃紫(7)、灰(8)、橙(9)、暗緑(10)、淡緑(11)、カーキ(12)となっている。

男子大学生にとつてその順位については青(1)、えび茶(2)、明青(3)、橙(4)、青紫(5)、緑(6)、黄(7)、青緑(8)、黄緑(9)、藍(10)、赤橙(11)、暗藍(12)、紫(13)、赤紫(14)、暗黄緑(15)、茶(16)、赤(17)、赤茶(18)、暗黄(19)、暗紫(20)となっている。男子は青、女子は黄(クリーム)を一番に好んだという結果が生じ、明度差の大きい変化が得られたわけである。

高校生にあつては、男子学生は第1位が黄に、女子学生はえび茶がなつて、青は男子は第3位、女子は第7位、青紫は男子は第4位で、女子では第2位になつたという。

中学生にあつては、男子生徒は黄が第1位、女子生徒は第2位、青は男子は第3位、女子は第1位、緑は男子第2位、女子第7位となり、赤紫は男子第6位、女子は第5位となつており、中学生高校生、大学生の比較は明らかに区別されといえる事が分る。色のすききらいは、幼年時代、少年時代、少女時代、中老時代、老年時代という劃期的な時代感覚が色に表われるもので、生理的現象から来ることも否めない主な原因になると思われる。米国のミネソタ大学のゲール教授による調査の結果は男子は赤橙を第2位に好んでいるのに反し、女子では全然好まれていない。又女子で橙青が第4位に好まれているのに男子ではみられない所が變つてゐる。この調査にはドイツの標準色紙を用いて行われたもの。男子は黒を、女子は赤を第1位に選んでいることはやはりアメリカ

らしいとうなづける点である。

米国ゲール教授による調査

第三表

注意・好む色の順位

女子	男子	好悪順位
赤	黒	1
緑	赤橙	2
黒	緑	3
橙青	青	4
紫	紫	5
黄	黄	6

英国の心理学者ウィンチ氏調査

ドイツ標準色紙使用

第四表

女児	男児	色の順位
青	青	1
赤	赤	2
緑	白	3
黄	緑	4
白	黄	5
黒	黒	6

この英国の心理学者ウィンチ氏の調査の結果をけんとうしてみると、男児も女児も青を第1位に好み、同じ赤を第2位に好んでおり、アメリカの先のゲール教授の調査とくらべて面白い結果である。更に詳しく、男児、女児の性別、学年別に男女の色の好みを表わしてみたのが次の第五表であつて、その結果として、学年

の進むにつれて知能が発達し、色の好悪は変化することが明らか
なようである。しかし、青、赤、黒の三色は常に不変の位置にあ
つて、緑や黄が年令によつて大きくその好悪感が変動することが
知られる。この調査にもドイツの標準色紙を使用して行われてい
る。

英国ウィンチ氏調査

第五表

学 年 別	性 別	色 の 種 別	青	赤	白	緑	黄	黒
Ⅱ		F M	1 1	2 3	4 5	5 4	3 2	6 6
Ⅲ		F M	1 1	2 2	3 5	4 4	5 3	6 6
Ⅳ		F M	1 1	2 2	3 5	4 4	5 3	6 6
Ⅴ		F M	1 1	2 2	4 5	4 3.5	5 3.5	6 6
Ⅵ		F M	1 1	2 2	4 5	3 3	5 4	6 6
Ⅶ		F M	1 1	2 2	4 5	3 3	5 4	6 6
成 人		F M	1 2	4 3	3 4	2 1	5 5	6 6

更に米国のGE会社のラキーシュ氏は、チムメルマン色紙の18種色を用いて男百十五名、女百二十一名について、夫々の嗜好色を撰択させて次の様なデータを得ている。色種は赤、橙、黄、緑、青、堇の各々の純色（純色とは色の中から白量、黒量をすべて除去つたものとドイツ色彩学者ウイルヘルム・オストワルド博士は定義している）と各色の明色（白量の混ざつたもの）と暗色（黒量のまじつたもの）との18種である。

米国GE会社ラキーシュ氏調査

チムメルマン色紙18種色使用

第六表

女 (121 名)			男 (115 名)			色の種別
暗色	明色	純色	暗色	明色	純色	
4	6	1	3	2	2	赤
5	5	5	5	6	5	橙
6	3	6	6	5	6	黄
3	4	4	4	4	4	緑
2	2	2	2	1	1	青
1	1	3	1	3	3	堇

この表をもつと分りやすくまとめてみたのが次表の第七表で、一体に男子も女子ともに純色をその明、暗色より好む傾向がみられて、明色にしても暗色にしても純色で好まれた色が上位に位置していることが分る。

第七表

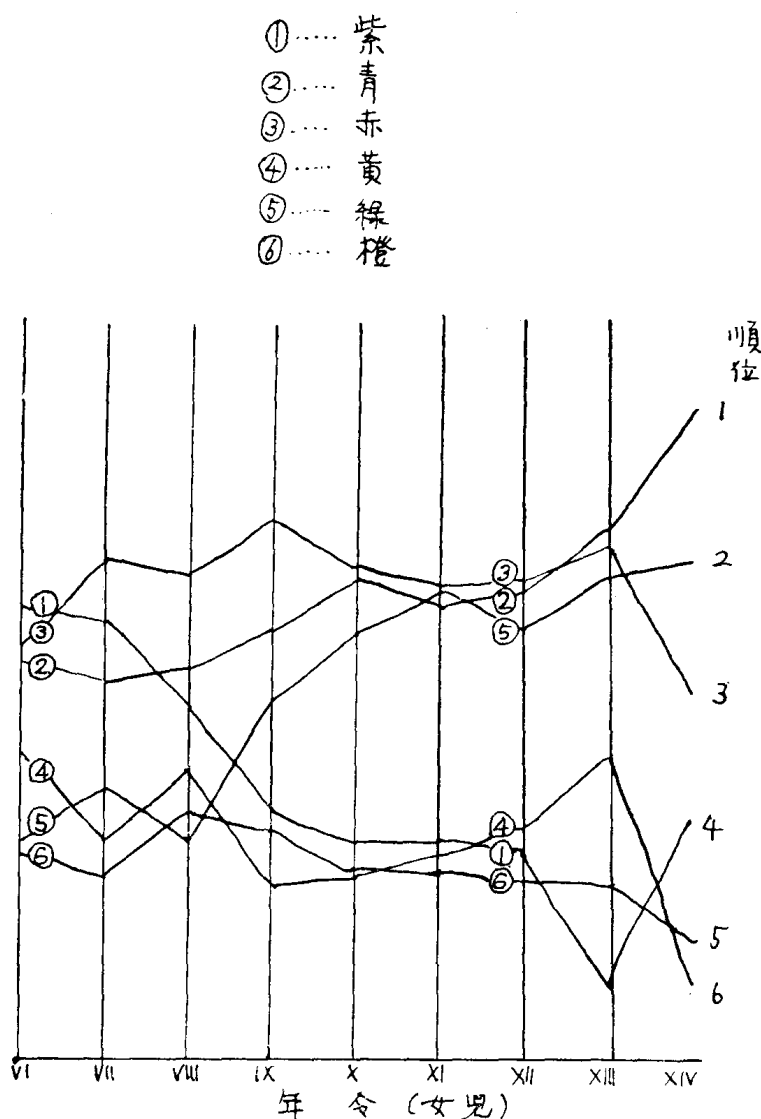
平均値	女	男	色の種別
順位	順位	順位	
2	2	1	青
1	1	2	赤
3	4	3	堇
5	8	4	緑(明)
4	6	5	青(明)
8	9	6	橙
7	7	7	青(暗)
6	5	8	堇(暗)
13	16	9	赤(明)
10	11	10	赤(暗)
9	3	11	堇(明)
12	14	12	黄
11	10	13	緑(暗)
17	17	14	橙(暗)
15	13	15	緑(明)
14	12	16	黄(明)
16	15	17	橙(明)
18	18	18	黄(暗)

日本の小学生の男女生の色の好悪についての調査を宮下教授の資料によつてその結果をみると、男子の場合第1位に青、黄が2位、3位に緑、4位が赤、5位に橙、6位に紫の順位を示している。女子はやはり第1位に青が生まれ2位に緑、赤が3位に、そして男子の6位の紫が女子では4位に上つている。5位は男子と同じで、黄が6位と下つている。男子と女子の著しい好悪の差は黄色であることが此の調査には表われた。この試料はチムメルマン色紙を黒ラシャ紙に貼付したものの六種色をそれぞれ撰択させたものである。女兒の場合、年令別に色の好悪撰択させた結果をグ

ラフにして第九図とした。男子も女子も高学年に進むにつれて青を好む傾向がある。

第八表 日本宮下氏調査

順位	男児色別	女児色別
1	青	青
2	黄	緑
3	緑	赤
4	赤	紫
5	橙	橙
6	紫	黄



第九図 色の好悪撰択日本人女児)

更に職業婦人の好悪色について同じく宮下氏の資料によると、その結果服色は仕事の関係から汚れの目立たないこと、経済的に永持ちすること、堅牢な染色を施した布地を用いること、余りけばけばしくなくて上品な色と形を持つこと等が条件となつていた。結果は紺青(28)、緑(15)、青(8)、赤(6)、白(5)、茶(5)となつてゐる。紺青は、つまり紺サージの学生服の色と同じく埃に対して目立たない経済的な地味な点から来ているものと思われる。

今までにあげたいくつかの実態調査の資料は、いずれも一色に對する嗜好調査であるけれども、小学生、中学生、高校生、大学生などの学生層に對し「あなたはどの色を好みますか」という問に對し、色数は8色・12色・24色とだんだん増加して、その中の一色が好きかきらいかということとは事実むずかしいことで、学生のその時の環境(もちろん心境による)による場合と、提示された時間差、標紙に對する色相の種類(染紙の方法・顔料、染料によつて色相に変化がある)などで表面の色感とは違つてくるものである。先に資料としてあげた英米の心理学者(英、ウインチ氏、米、ゲール氏、ラキーシュ教授ら)によつた調査は、ドイツの標準色紙を用いてあるが、最近日本で行われている場合に、調査色紙を明記してある場合は少ないようである。

幼稚園の児童などに対しては子供の心理状態

職業婦人服色好惡調査

第十表

職業種別	デパート	個人商店	喫茶店	劇場	食堂	車掌	工員	其他	計
白	0	1	1	0	3	0	0	0	5
黄	0	0	0	0	0	0	0	0	0
灰	2	1	0	0	0	0	0	0	3
緑	2	2	3	5	3	0	0	0	15
赤	2	0	2	1	1	0	0	0	6
茶	1	0	1	2	1	0	0	0	5
赤紫	0	0	0	1	1	0	0	0	2
紺青	13	3	0	2	5	3	1	1	28
青	0	0	1	3	2	1	0	0	8
黒	1	0	0	1	0	0	0	0	2
其他	1	1	1	0	0	0	0	0	3

をよくはかつた上で行わないと、その結果はいちじるしく異なる
と考えられている。学生層でも試験の前後、運動の後、昼時間の
前など、実際に調査する時間も定めなければいけないのではない
だろうか。工員、会社員、その他の職場の人々に対しても同様だ
と思われる。幼稚園、小学校にあつては都会の場合と地方の場合
との比較、同じく都会でも、山手の学校と下町の学校の位置、家
庭、職業に異同のある場合、その生徒の嗜好色にどんな影響があ

るだろうかという調査も今後に待たれる興味ある問題点である。
ここで好まれる色という問題を商品の販売高の面から考えてみ
ることにする。アメリカでは、一般に商品を非常に多量に生産す
るため、注文があつてから作つていたのでは間に合わない、いき
おい季節の色の売高を調査しておき、これに比例して計画生産す
る立場におかれているので色の販売高については詳細な調査を行
つている。バーレン氏の（一九四五年）の著書によれば、次のよ
うな調査がある。

春 ピンク、緑、レモン・イエロー、銀

夏 白、濃黄、青、濃緑

秋 朱、オレンジ、ブラウン、紫

冬 金、赤、黒

各季節にこういう色が好まれているという。また米国の祭日には
商品が次の色の割合で売れているということである。

新年 赤40%、青34%、緑14%、他全部12%

聖バレンタインの日（二月十四日）赤73%、金11%、青7%、
他全部9%

聖パトリック日の（三月十七日）緑89%、白9%、他全部2%
復活祭（四月の満月から近い日曜）黄34%、黄緑31%、紫ピン

ク14%、えんじ11%、他全部10%

万聖節（十月三十一日夕）オレンジ68%、黒17%、緑4%、黄
3%、他全部8%

クリスマス、赤52%、緑31%、青8%、他全部9%

日本にはあまり資料がないが、横浜大学家政科藤井千枝氏の調

査では、橙、青、赤が多く、黄緑は少ないという。なお名古屋では水色が東京、大阪より多く出る事実があるそうである。

色の販売高も季節によつてパーセンテージが異なるようだがこれは季節によつて人の好む色に変化するという事に外ならない。このことはとりもなおさず季節の風景と色の美しい調和を保つためで、多くの人は季節の色に無関心のようなが、実は非常に色に敏感に影響されることが分る。

季節によつて変化するという事については一九五三年末にエリザベス女王戴冠式のためワインカラーが増大していたのが冬になつて赤に移り、一―二月までは赤が多いが、これはアメリカの季節の色とよく似ている。日本でも正月は金、黒を使うが、これもアメリカと同じで、たゞアメリカはこれがクリスマスから始まるようである。アメリカでは金を二月につかうけれど、日本では新年に使うようである。その他は日本の十二月、一月、二月はかなり同じであるが三月になり赤系統がへり橙がふえる。また淡紫が少しふえてくる。四月には赤がへつてマゼンタ、シアン、紫が増す。五月には初夏になるのでマゼンタ、えんじ、赤橙、が全部へり、青緑、青が増加してすっかり夏らしくなる。六月になり暖い橙色はますますへり、一時的に黄をへる。六、七、八月と水色がへつて、濃い青が非常に増加する。この時紫青も幾分へる傾向になる。赤、黄、青のあざやかな配色は夏の強い日によく合う感じである。濃い青は九月を頂点として冬に向つて、だんだんへりはじめる濃い緑も同様である。緑については、六、七月に若芽の緑と逆に、青緑がまし、これは八、九、十月と木の葉の青緑が

増すのと反対にへつていくのはきわめて面白い。緑は逆に七月を最小として、八、九月と増加する。橙は九、十月と秋に向つて増加し、十一月が最大である。赤は十一月に少しへるが、十月、十二月に多くなつて丁度橙といれかわる形をとっている。紫では青紫が年の後半に少なく、前半に多い、紫は幾分その逆になる。以上の季節による色の変化は田口氏のデータによつた。

又米国の調査によると、次の表のような順で商品が売れている。ただし、この順序は流行で非常に左右されて、大きな波のように変化するものであるが、上位のパーセンテージは殆ど変化しないという。

第十一表
色 の 賣 れ 高

色	販賣高	色	販賣高
濃 青	% 24.5	とび色	% 2.0
黒	14.8	暗 緑	1.3
マルーン	12.4	朱	1.2
ネービーブルー	8.8	灰 青	1.0
サンド	8.2	銀	0.5
青	5.8	ブラウン	0.4
赤	4.3	黄 緑	0.3
白	4.1	橙	0.3
金	3.7	ピンク	0.2
緑	3.0	紫	0.2
水 色	2.2		

黄や橙が人目につく点で著しいのに売れ高は橙がわずかに表にみられるに過ぎないが色の見え方、眼につき方、好まれ方、記憶され方の四つは全く別の心理的性質らしく違つた順位を持ち見え

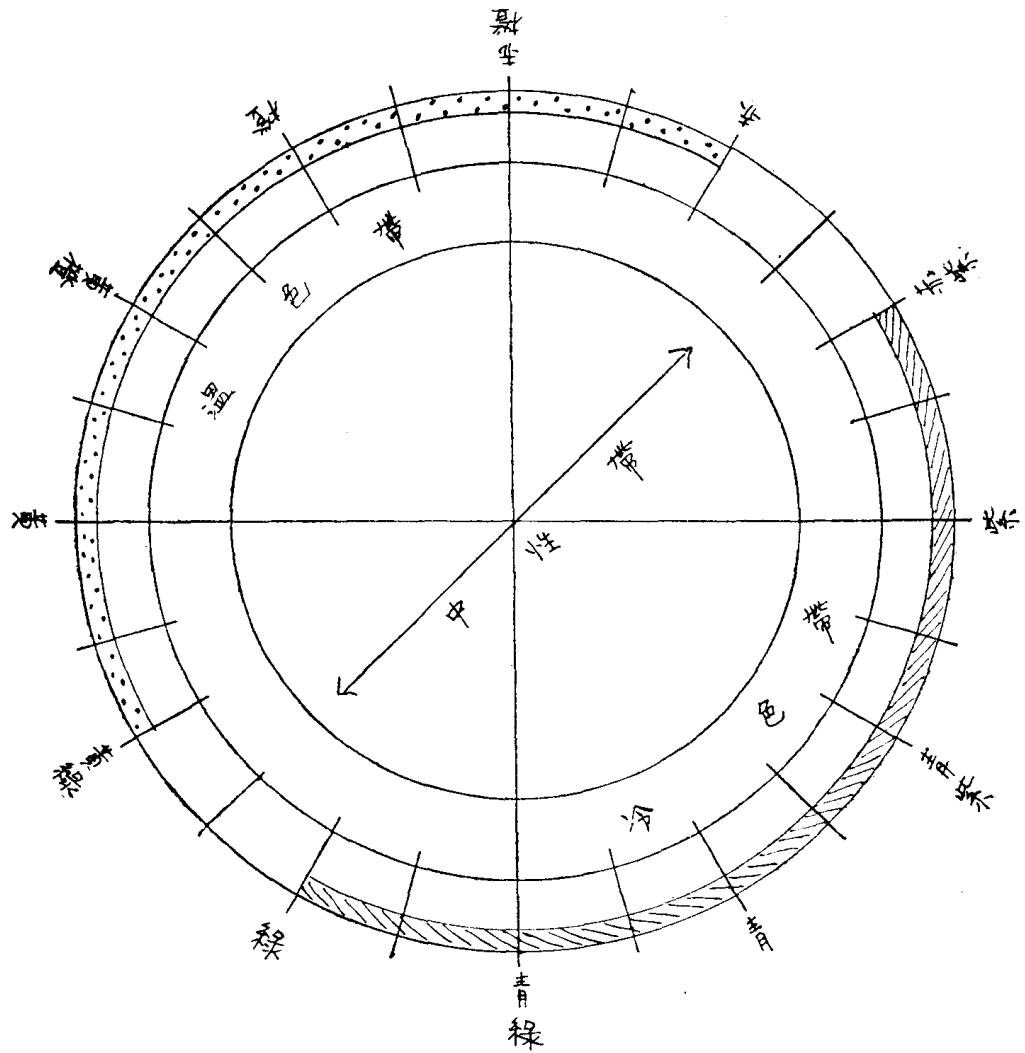
第十二図 冷 温 色 帯 の 区 分

温色帯……黄緑、黄、黄橙、橙、橙赤、赤

冷色帯……緑、青緑、青、青紫、紫、赤紫

中性帯……黄緑——緑

赤 —— 赤紫



方は赤が、眼につき方は黄が第一で記憶され方は男女で違い女性ではダークブルー、男性はパープルで、記憶されにくい色はライトブルー、女性はいろブルーであるという。ここにも好まれる

であるが、一九五六年春までの調査では、緋が第一となり、マゼンタ（ワインカラー）は下位に下つてきているということである。

色という問題が大きくクローズアップされてくる。

日本での調査では橙は濃青とコンビになつてはじめて好まれる色だが濃青の好まれ方が大きいので、日本の洋装女性の間では、高いパーセンテージをしめしているという。しかし、濃青は桃色、赤などと組み合わせても沢山つかわれるので、濃青は非常な高位につかわれ、売れ高でも濃青の売れ高は他の色との配色上多くでているようである。

横浜国立大学家政科の藤井千枝氏の調査によれば、洋装女性のつかつた色は多く出た順序で、紅、緋、コバルト、橙、群青の順で少ないのは黄緑、紫緑、紫、緑、シアンであるということである。また中位につかわれた色は多い方から青緑、黄、マゼンタであつたという。この調査は一九五四年四月までのもの

今まで衣服の色の好みについて各種データによつてみてきたのであるが、ここで好きらいに最も影響を与えると考えられる色自身の人間にあたえる心理的反應、即ち色の感じをまとめてみたい。

色は一色のとき、或いは配色として沢山の色が見えた場合、感じや、気分や次にそれに対して何かしようとする衝動など、人間はいろいろの心理反應を示すもので、強く大きな赤い色を眼の前でふりまわされると怒りたくなり、青い部屋に終日と同じこめられたら気が滅入つてしまう。長雨に降りこめられたのはこの青の感じであり、ようやく雲が暗れて、その中から黄色い太陽の光が射しこんでくると気持ちが明るくなるのは、黄色が希望を表徴するからである。橙色の大きな太陽は、水平線に向つて腕をふりあげ、喜びたい気持ちをおこすが、これは橙色が抱負、満足、歡喜を表わすからである。青を否んだ色は心理的に冷たい色調であり、黄を含んだ色は温い色調であるとされている。冷温中間の色は何れにも属さない中性色として取扱われる。紫の一部とか、緑の一部とかは、その中に含む赤色の量、黄、青の量によつて何れにも傾き易いものである。心理的な現象によるものであるので、多少の差異はあると思われる。夏季に好まれる色は浴衣地のように青藍色であり、冬季に好まれる色は黄―橙―褐色が多いというものもこれは自然の環境から生れる心理であり、夏の服装が青藍から緑の色が好まれるのも、色そのものの感情が入っているからで自ら冬期と区別されてくる。

一色のもつ心理効果は田口氏の意見によると次の様にまとめる

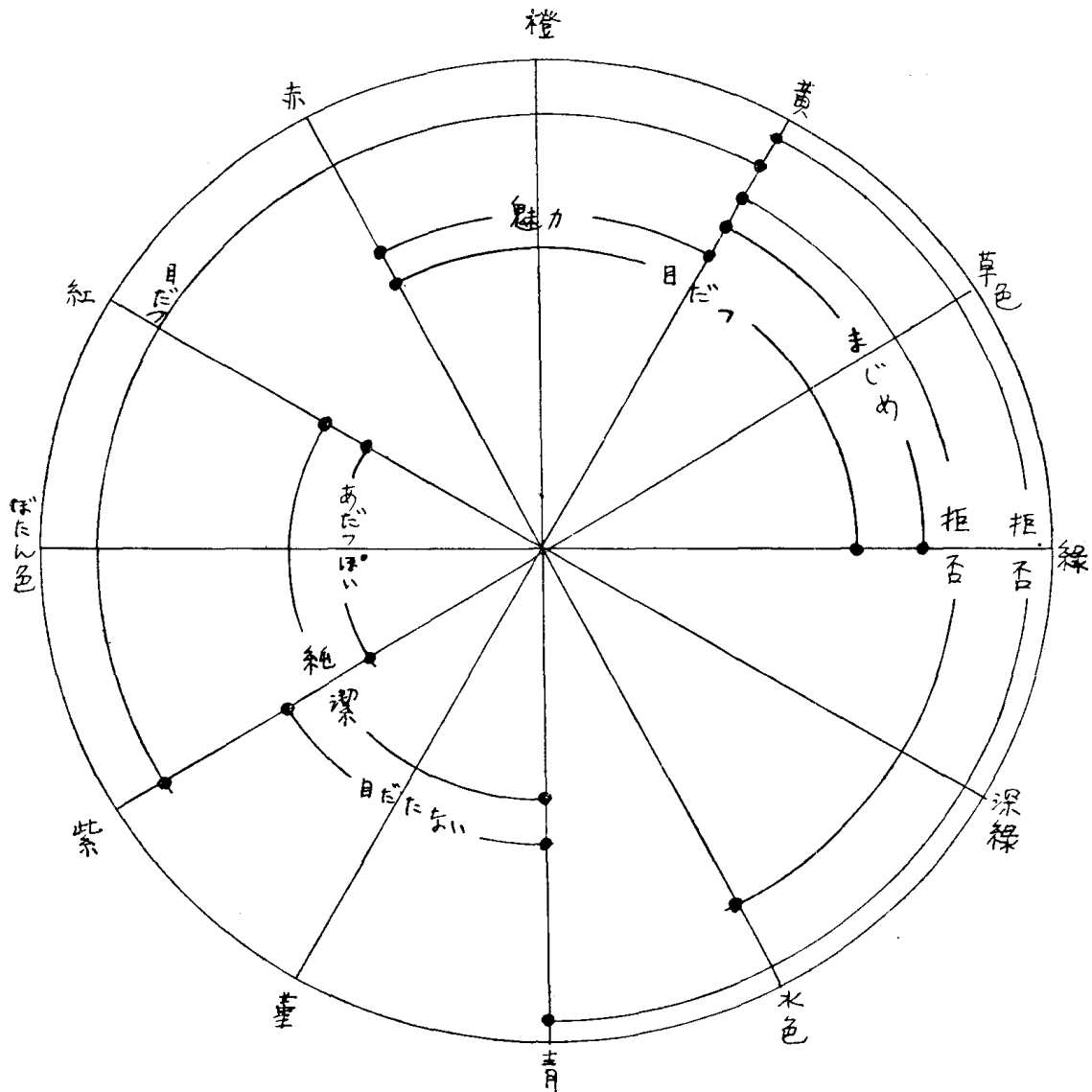
ことができる。

第十三表

色名	色感	主観	客観
赤	暖かい	残忍	活力、肉体的
橙	―	歡喜、抱負、満足	積極、喜悅、元氣
黄	やゝ暖かい	希望、健康	功名、快活
黄緑	―	病氣	慰安
緑	中性	罪	理想、平和
青緑	やゝ冷たい	怖れ、嫉妬、幽霊	安息
水色	冷たい	多雨の日、いらつき	水、憂鬱
青	―	恐怖、寒さ	深遠、眞面目
紫青	やゝ冷たい	霧、孤独、失望、冷たさ	神秘、崇高
紫	中性	影、優婉	やさしめ、雰囲気
赤紫	やゝ暗い	情熱	婉麗、あでやか
紅	―	貪慾	性的、発情的、性熱

二色配色の場合、たとえば紅と青、桃色と青などは純潔な二色配色であり、これに反して黄と青、黄と水色は見る人に拒否感をあたえる。つまり厭がる気持ちをおこさせる。これは色の心理のもつとも興味ある部分で、黄色と青が拒否感をおこさせるのに反し

第十四図 二色配色の心理効果



黄と赤は親近感、或いはこの上ない魅力感をよびおこす。以上三種が二色配色の主要な問題点であるということである。なお緑と紫が加わると、これは中性色であるためその影響が出てくるという。これを図に表わしてみると次のようになる。

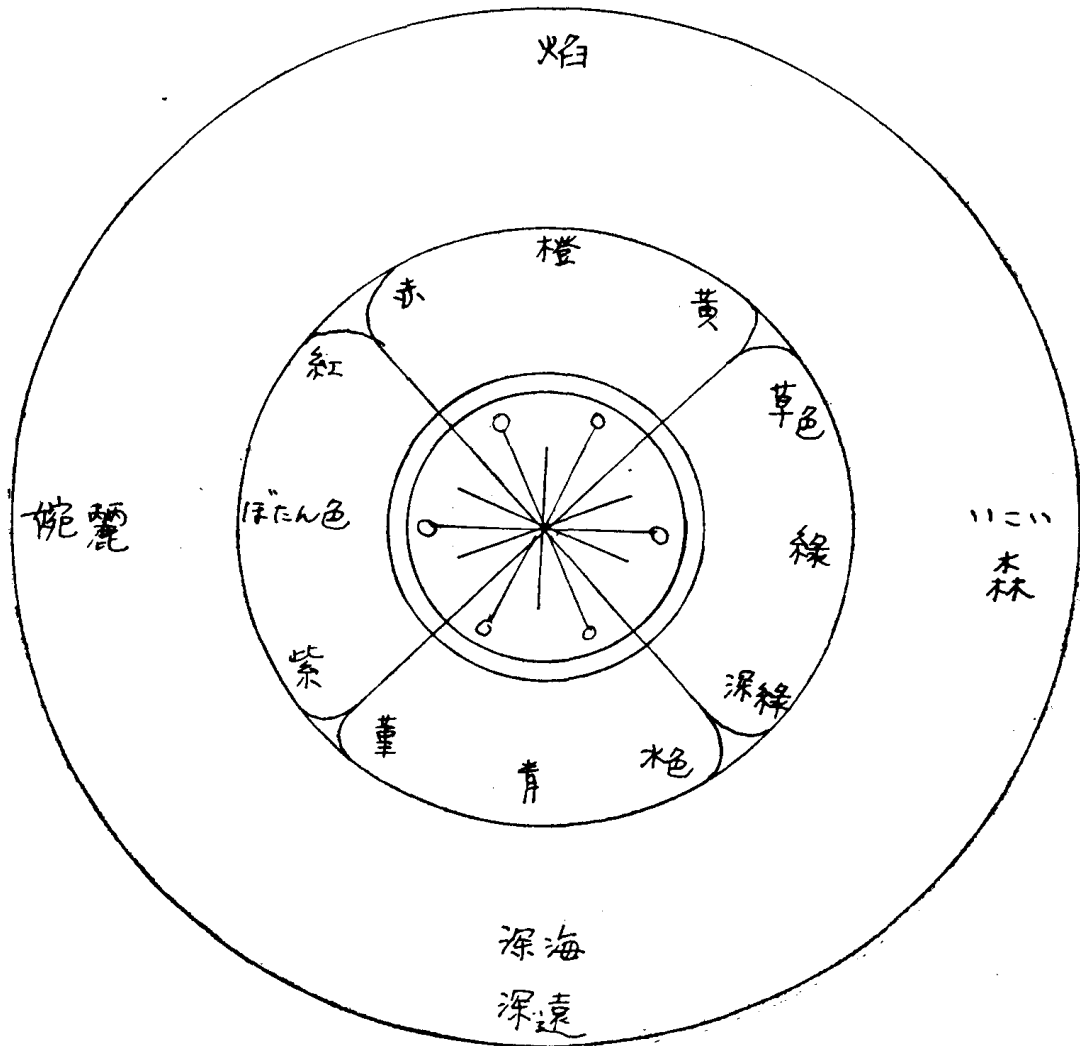
連続した三色は一色の心理を強めて特殊の効果を表わすと田口氏は云っている。色の名は前の図とわざと変えて具体性をもたせてある。

色に対する連想作用について小学生中学生、高校生、大学生と学童及び学生のアンケートをとつて、その集計を試みると次の様な結果が表われている。(日本女子大学生の研究課題提出)。集計者は宮下氏。

(問) あなたは次に示す色からどんな点を連想しますか。

赤…血、火、焰、暴力、情熱、革命
獸的愛情、花、怒、太陽
黄…菊の花、黄金、僧服、功名心、
おみなえし、声、カナリヤ、糞
便、豊か、ひまわり、バナナ

第十五図
連 続 三 色 の 心 理



橙黄…みかん、だいたい、夕日、湘南電車、

日本通運自動車、ジューズ、興奮

青…海、山、空、希望、青春、蛇、草原

緑…春、常夏の国、永久、少壮、海、平和、

可憐、理知的

紫…僧服、喪、高貴、花（あぢさい）すみれ

老女、神聖、はなやが

茶褐…老僧、茶人、冬枯、老衰、粋、けんそ

ん、渋味

紺…のれん、海軍服、夜の空、深海、なす、

暗い心

ばらいろ…純愛、美人の肌、顔、温情

白…清潔、雪、貧乏、入道雲、スピッツ。砂

糖

黒…暗闇、死、恐怖、凶悪、憎み、烏、喪服

以上の外に都会の学童の中ではピカソとかマ

チスなどを想い出すといった点などがあつたとい

う。

先にものべたように色の好みは季節によつて

大いに影響されることが考えられるので、ここ

で更に色のもつている季節の感じについてま

めてみたい。

デパートなどで、よく春の生地とか夏の生地

とか銘うつて売り出しているが、色については

第十六表

色の感じによる衣裳配色例

感	じ	上	衣	スカート	バンド	リボン	手袋
若々しい うるわしい 清楚 鮮明 軽快	知的 知的 知的 知的 知的	赤 シアン 白 黄 白 黄 黒	白 赤 青 青 青 青 青	白 赤 青 青 青 青 青	黒 黒 黒 黒 黒 黒 黒	紫 緑	色 卵 青 白
理知的 理知的 理知的 理知的 理知的	知的 知的 知的 知的 知的	白 青 緑 茶 青 茶 青	青 青 紫 紫 紫 紫 紫	青 青 紫 紫 紫 紫 紫	黒 黒 黒 黒 黒 黒 黒	紫 緑	色 卵 青 白
深味がある い い い い い	知的 知的 知的 知的 知的	白 黄 白 黄 白 黄 黒	白 赤 青 青 青 青 青	白 赤 青 青 青 青 青	黒 黒 黒 黒 黒 黒 黒	紫 緑	色 卵 青 白
暖かい 暖かい 暖かい 暖かい 暖かい	知的 知的 知的 知的 知的	白 黄 白 黄 白 黄 黒	白 赤 青 青 青 青 青	白 赤 青 青 青 青 青	黒 黒 黒 黒 黒 黒 黒	紫 緑	色 卵 青 白
モダン 濃陽 魅惑	知的 知的 知的 知的 知的	白 黄 白 黄 白 黄 黒	白 赤 青 青 青 青 青	白 赤 青 青 青 青 青	黒 黒 黒 黒 黒 黒 黒	紫 緑	色 卵 青 白

これが春の色だ、これは秋の色だとはつきり云切つてしまうことは出来ないにしても大体の約束があるようである。例えばオレンジならオレンジのウールの布地を見た場合に、この感じは少し暗すぎて秋にはいふけれど春に着るのならもう少し明るい方が：という場合などがよくあるけれど、これはやはり無意識のうちに春は明度の高いもの、秋はそれよりも明度の低いものの方が、季節にも調和するということを考えているわけで四季に分けて常識的な一応の標準になる色をやはりあげることが出来る。

春は明度は中明度から高明度のやさしい明るい色、彩度は中くらいより高めの方がよいが明度の場合には、彩度の低いのも落着いた感じがする。色相は暖色か中性色系。つまり黒ずんだものよりミルクがかつた明るいものが一般によい。明度⑪⑫のように、濃い色を使いたい場合は、彩度を高くすること。明度も彩度も低いと、冬の色になつてしまうシルバーグレイ色相⑩明度⑪⑫彩度⑩、ブルーラベンダー色相⑬明度⑬⑭彩度③、ベビーブルー⑮⑯⑰、ペールグリーン⑱⑲⑳、スプリンググリーン⑳㉑㉒、クリーム㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、ベビーピンク㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿。これをみても明度の明るい彩度の中くらいのものよりも幾分高めの方がよいということになる。

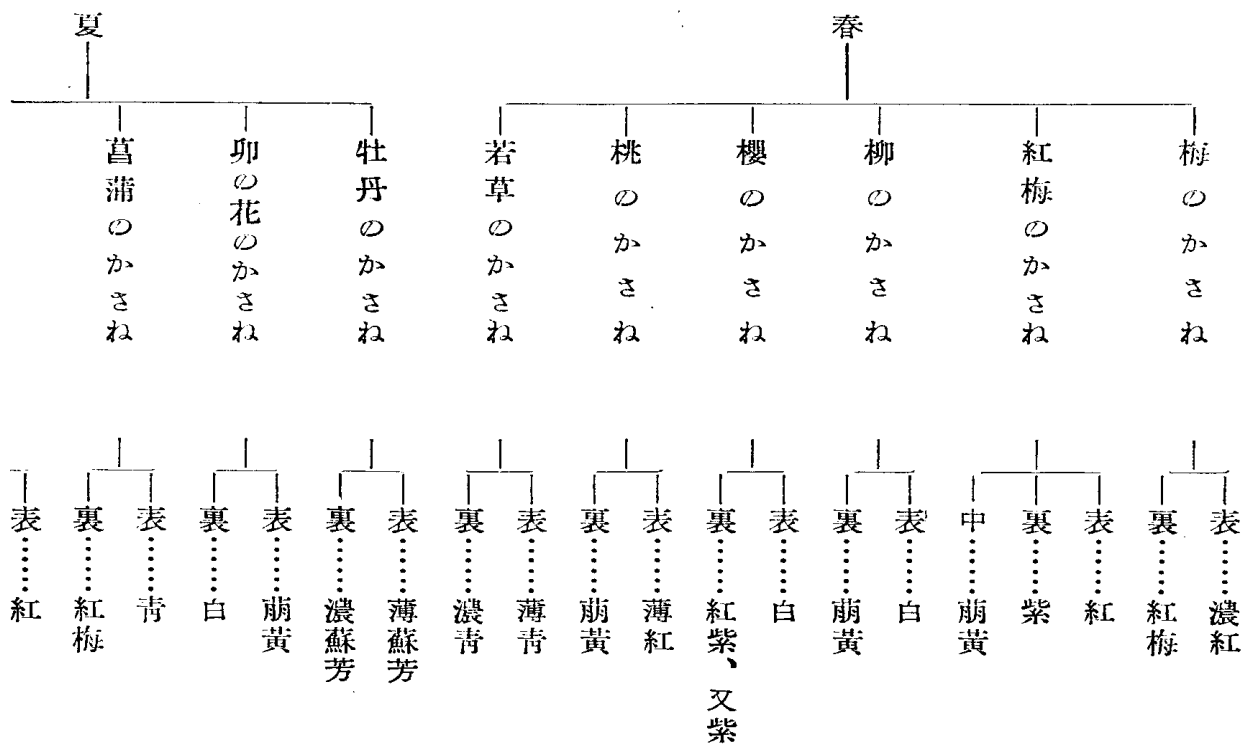
夏は明度の高明度のもので彩度の中くらいから高め。色相は寒色系のものがよく、ローズやグリーンの場合も青味を持った涼しい感じのもの。明度差、彩度差を大きくした方がはつきりとしてよく、この場合彩度の高い色を80%使つたらごく彩度の低い色を20%使う明度の場合も同じで、⑮⑯⑰などの高明度の色に⑪

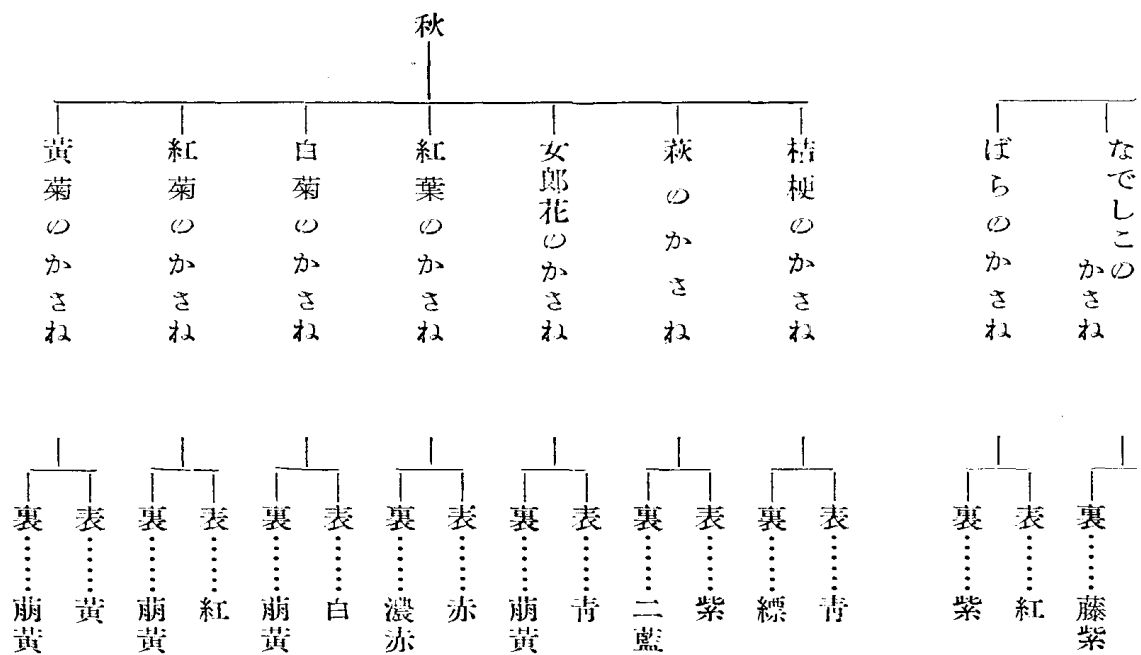
⑫⑬程度の低明度のものをごく少しあしらつて、明度差を大きくした方が効果的になる。イエロー色相⑧明度⑮彩度⑥、デ IPP レッドパープル⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㋀㋁㋂㋃㋄㋅㋆㋇㋈㋉㋊㋋㋌㋍㋎㋏㋐㋑㋒㋓㋔㋕㋖㋗㋘㋙㋚㋛㋜㋝㋞㋟㋠㋡㋢㋣㋤㋥㋦㋧㋨㋩㋪㋫㋬㋭㋮㋯㋰㋱㋲㋳㋴㋵㋶㋷㋸㋹㋺㋻㋼㋽㋾㋿㌀㌁㌂㌃㌄㌅㌆㌇㌈㌉㌊㌋㌌㌍㌎㌏㌐㌑㌒㌓㌔㌕㌖㌗㌘㌙㌚㌛㌜㌝㌞㌟㌠㌡㌢㌣㌤㌥㌦㌧㌨㌩㌪㌫㌬㌭㌮㌯㌰㌱㌲㌳㌴㌵㌶㌷㌸㌹㌺㌻㌼㌽㌾㌿㍀㍁㍂㍃㍄㍅㍆㍇㍈㍉㍊㍋㍌㍍㍎㍏㍐㍑㍒㍓㍔㍕㍖㍗㍘㍙㍚㍛㍜㍝㍞㍟㍠㍡㍢㍣㍤㍥㍦㍧㍨㍩㍪㍫㍬㍭㍮㍯㍰㍱㍲㍳㍴㍵㍶㍷㍸㍹㍺㍻㍼㍽㍾㍿㏀㏁㏂㏃㏄㏅㏆㏇㏈㏉㏊㏋㏌㏍㏎㏏㏐㏑㏒㏓㏔㏕㏖㏗㏘㏙㏚㏛㏜㏝㏞㏟㏠㏡㏢㏣㏤㏥㏦㏧㏨㏩㏪㏫㏬㏭㏮㏯㏰㏱㏲㏳㏴㏵㏶㏷㏸㏹㏺㏻㏼㏽㏾㏿㐀㐁㐂㐃㐄㐅㐆㐇㐈㐉㐊㐋㐌㐍㐎㐏㐐㐑㐒㐓㐔㐕㐖㐗㐘㐙㐚㐛㐜㐝㐞㐟㐠㐡㐢㐣㐤㐥㐦㐧㐨㐩㐪㐫㐬㐭㐮㐯㐰㐱㐲㐳㐴㐵㐶㐷㐸㐹㐺㐻㐼㐽㐾㐿㑀㑁㑂㑃㑄㑅㑆㑇㑈㑉㑊㑋㑌㑍㑎㑏㑐㑑㑒㑓㑔㑕㑖㑗㑘㑙㑚㑛㑜㑝㑞㑟㑠㑡㑢㑣㑤㑥㑦㑧㑨㑩㑪㑫㑬㑭㑮㑯㑰㑱㑲㑳㑴㑵㑶㑷㑸㑹㑺㑻㑼㑽㑾㑿㒀㒁㒂㒃㒄㒅㒆㒇㒈㒉㒊㒋㒌㒍㒎㒏㒐㒑㒒㒓㒔㒕㒖㒗㒘㒙㒚㒛㒜㒝㒞㒟㒠㒡㒢㒣㒤㒥㒦㒧㒨㒩㒪㒫㒬㒭㒮㒯㒰㒱㒲㒳㒴㒵㒶㒷㒸㒹㒺㒻㒼㒽㒾㒿㓀㓁㓂㓃㓄㓅㓆㓇㓈㓉㓊㓋㓌㓍㓎㓏㓐㓑㓒㓓㓔㓕㓖㓗㓘㓙㓚㓛㓜㓝㓞㓟㓠㓡㓢㓣㓤㓥㓦㓧㓨㓩㓪㓫㓬㓭㓮㓯㓰㓱㓲㓳㓴㓵㓶㓷㓸㓹㓺㓻㓼㓽㓾㓿㔀㔁㔂㔃㔄㔅㔆㔇㔈㔉㔊㔋㔌㔍㔎㔏㔐㔑㔒㔓㔔㔕㔖㔗㔘㔙㔚㔛㔜㔝㔞㔟㔠㔡㔢㔣㔤㔥㔦㔧㔨㔩㔪㔫㔬㔭㔮㔯㔰㔱㔲㔳㔴㔵㔶㔷㔸㔹㔺㔻㔼㔽㔾㔿㕀㕁㕂㕃㕄㕅㕆㕇㕈㕉㕊㕋㕌㕍㕎㕏㕐㕑㕒㕓㕔㕕㕖㕗㕘㕙㕚㕛㕜㕝㕞㕟㕠㕡㕢㕣㕤㕥㕦㕧㕨㕩㕪㕫㕬㕭㕮㕯㕰㕱㕲㕳㕴㕵㕶㕷㕸㕹㕺㕻㕼㕽㕾㕿㖀㖁㖂㖃㖄㖅㖆㖇㖈㖉㖊㖋㖌㖍㖎㖏㖐㖑㖒㖓㖔㖕㖖㖗㖘㖙㖚㖛㖜㖝㖞㖟㖠㖡㖢㖣㖤㖥㖦㖧㖨㖩㖪㖫㖬㖭㖮㖯㖰㖱㖲㖳㖴㖵㖶㖷㖸㖹㖺㖻㖼㖽㖾㖿㗀㗁㗂㗃㗄㗅㗆㗇㗈㗉㗊㗋㗌㗍㗎㗏㗐㗑㗒㗓㗔㗕㗖㗗㗘㗙㗚㗛㗜㗝㗞㗟㗠㗡㗢㗣㗤㗥㗦㗧㗨㗩㗪㗫㗬㗭㗮㗯㗰㗱㗲㗳㗴㗵㗶㗷㗸㗹㗺㗻㗼㗽㗾㗿㘀㘁㘂㘃㘄㘅㘆㘇㘈㘉㘊㘋㘌㘍㘎㘏㘐㘑㘒㘓㘔㘕㘖㘗㘘㘙㘚㘛㘜㘝㘞㘟㘠㘡㘢㘣㘤㘥㘦㘧㘨㘩㘪㘫㘬㘭㘮㘯㘰㘱㘲㘳㘴㘵㘶㘷㘸㘹㘺㘻㘼㘽㘾㘿㙀㙁㙂㙃㙄㙅㙆㙇㙈㙉㙊㙋㙌㙍㙎㙏㙐㙑㙒㙓㙔㙕㙖㙗㙘㙙㙚㙛㙜㙝㙞㙟㙠㙡㙢㙣㙤㙥㙦㙧㙨㙩㙪㙫㙬㙭㙮㙯㙰㙱㙲㙳㙴㙵㙶㙷㙸㙹㙺㙻㙼㙽㙾㙿㚀㚁㚂㚃㚄㚅㚆㚇㚈㚉㚊㚋㚌㚍㚎㚏㚐㚑㚒㚓㚔㚕㚖㚗㚘㚙㚚㚛㚜㚝㚞㚟㚠㚡㚢㚣㚤㚥㚦㚧㚨㚩㚪㚫㚬㚭㚮㚯㚰㚱㚲㚳㚴㚵㚶㚷㚸㚹㚺㚻㚼㚽㚾㚿㜀㜁㜂㜃㜄㜅㜆㜇㜈㜉㜊㜋㜌㜍㜎㜏㜐㜑㜒㜓㜔㜕㜖㜗㜘㜙㜚㜛㜜㜝㜞㜟㜠㜡㜢㜣㜤㜥㜦㜧㜨㜩㜪㜫㜬㜭㜮㜯㜰㜱㜲㜳㜴㜵㜶㜷㜸㜹㜺㜻㜼㜽㜾㜿㝀㝁㝂㝃㝄㝅㝆㝇㝈㝉㝊㝋㝌㝍㝎㝏㝐㝑㝒㝓㝔㝕㝖㝗㝘㝙㝚㝛㝜㝝㝞㝟㝠㝡㝢㝣㝤㝥㝦㝧㝨㝩㝪㝫㝬㝭㝮㝯㝰㝱㝲㝳㝴㝵㝶㝷㝸㝹㝺㝻㝼㝽㝾㝿㞀㞁㞂㞃㞄㞅㞆㞇㞈㞉㞊㞋㞌㞍㞎㞏㞐㞑㞒㞓㞔㞕㞖㞗㞘㞙㞚㞛㞜㞝㞞㞟㞠㞡㞢㞣㞤㞥㞦㞧㞨㞩㞪㞫㞬㞭㞮㞯㞰㞱㞲㞳㞴㞵㞶㞷㞸㞹㞺㞻㞼㞽㞾㞿㟀㟁㟂㟃㟄㟅㟆㟇㟈㟉㟊㟋㟌㟍㟎㟏㟐㟑㟒㟓㟔㟕㟖㟗㟘㟙㟚㟛㟜㟝㟞㟟㟠㟡㟢㟣㟤㟥㟦㟧㟨㟩㟪㟫㟬㟭㟮㟯㟰㟱㟲㟳㟴㟵㟶㟷㟸㟹㟺㟻㟼㟽㟾㟿㠀㠁㠂㠃㠄㠅㠆㠇㠈㠉㠊㠋㠌㠍㠎㠏㠐㠑㠒㠓㠔㠕㠖㠗㠘㠙㠚㠛㠜㠝㠞㠟㠠㠡㠢㠣㠤㠥㠦㠧㠨㠩㠪㠫㠬㠭㠮㠯㠰㠱㠲㠳㠴㠵㠶㠷㠸㠹㠺㠻㠼㠽㠾㠿㡀㡁㡂㡃㡄㡅㡆㡇㡈㡉㡊㡋㡌㡍㡎㡏㡐㡑㡒㡓㡔㡕㡖㡗㡘㡙㡚㡛㡜㡝㡞㡟㡠㡡㡢㡣㡤㡥㡦㡧㡨㡩㡪㡫㡬㡭㡮㡯㡰㡱㡲㡳㡴㡵㡶㡷㡸㡹㡺㡻㡼㡽㡾㡿㢀㢁㢂㢃㢄㢅㢆㢇㢈㢉㢊㢋㢌㢍㢎㢏㢐㢑㢒㢓㢔㢕㢖㢗㢘㢙㢚㢛㢜㢝㢞㢟㢠㢡㢢㢣㢤㢥㢦㢧㢨㢩㢪㢫㢬㢭㢮㢯㢰㢱㢲㢳㢴㢵㢶㢷㢸㢹㢺㢻㢼㢽㢾㢿㣀㣁㣂㣃㣄㣅㣆㣇㣈㣉㣊㣋㣌㣍㣎㣏㣐㣑㣒㣓㣔㣕㣖㣗㣘㣙㣚㣛㣜㣝㣞㣟㣠㣡㣢㣣㣤㣥㣦㣧㣨㣩㣪㣫㣬㣭㣮㣯㣰㣱㣲㣳㣴㣵㣶㣷㣸㣹㣺㣻㣼㣽㣾㣿㤀㤁㤂㤃㤄㤅㤆㤇㤈㤉㤊㤋㤌㤍㤎㤏㤐㤑㤒㤓㤔㤕㤖㤗㤘㤙㤚㤛㤜㤝㤞㤟㤠㤡㤢㤣㤤㤥㤦㤧㤨㤩㤪㤫㤬㤭㤮㤯㤰㤱㤲㤳㤴㤵㤶㤷㤸㤹㤺㤻㤼㤽㤾㤿㥀㥁㥂㥃㥄㥅㥆㥇㥈㥉㥊㥋㥌㥍㥎㥏㥐㥑㥒㥓㥔㥕㥖㥗㥘㥙㥚㥛㥜㥝㥞㥟㥠㥡㥢㥣㥤㥥㥦㥧㥨㥩㥪㥫㥬㥭㥮㥯㥰㥱㥲㥳㥴㥵㥶㥷㥸㥹㥺㥻㥼㥽㥾㥿㦀㦁㦂㦃㦄㦅㦆㦇㦈㦉㦊㦋㦌㦍㦎㦏㦐㦑㦒㦓㦔㦕㦖㦗㦘㦙㦚㦛㦜㦝㦞㦟㦠㦡㦢㦣㦤㦥㦦㦧㦨㦩㦪㦫㦬㦭㦮㦯㦰㦱㦲㦳㦴㦵㦶㦷㦸㦹㦺㦻㦼㦽㦾㦿㧀㧁㧂㧃㧄㧅㧆㧇㧈㧉㧊㧋㧌㧍㧎㧏㧐㧑㧒㧓㧔㧕㧖㧗㧘㧙㧚㧛㧜㧝㧞㧟㧠㧡㧢㧣㧤㧥㧦㧧㧨㧩㧪㧫㧬㧭㧮㧯㧰㧱㧲㧳㧴㧵㧶㧷㧸㧹㧺㧻㧼㧽㧾㧿㨀㨁㨂㨃㨄㨅㨆㨇㨈㨉㨊㨋㨌㨍㨎㨏㨐㨑㨒㨓㨔㨕㨖㨗㨘㨙㨚㨛㨜㨝㨞㨟㨠㨡㨢㨣㨤㨥㨦㨧㨨㨩㨪㨫㨬㨭㨮㨯㨰㨱㨲㨳㨴㨵㨶㨷㨸㨹㨺㨻㨼㨽㨾㨿㩀㩁㩂㩃㩄㩅㩆㩇㩈㩉㩊㩋㩌㩍㩎㩏㩐㩑㩒㩓㩔㩕㩖㩗㩘㩙㩚㩛㩜㩝㩞㩟㩠㩡㩢㩣㩤㩥㩦㩧㩨㩩㩪㩫㩬㩭㩮㩯㩰㩱㩲㩳㩴㩵㩶㩷㩸㩹㩺㩻㩼㩽㩾㩿㪀㪁㪂㪃㪄㪅㪆㪇㪈㪉㪊㪋㪌㪍㪎㪏㪐㪑㪒㪓㪔㪕㪖㪗㪘㪙㪚㪛㪜㪝㪞㪟㪠㪡㪢㪣㪤㪥㪦㪧㪨㪩㪪㪫㪬㪭㪮㪯㪰㪱㪲㪳㪴㪵㪶㪷㪸㪹㪺㪻㪼㪽㪾㪿㫀㫁㫂㫃㫄㫅㫆㫇㫈㫉㫊㫋㫌㫍㫎㫏㫐㫑㫒㫓㫔㫕㫖㫗㫘㫙㫚㫛㫜㫝㫞㫟㫠㫡㫢㫣㫤㫥㫦㫧㫨㫩㫪㫫㫬㫭㫮㫯㫰㫱㫲㫳㫴㫵㫶㫷㫸㫹㫺㫻㫼㫽㫾㫿㬀㬁㬂㬃㬄㬅㬆㬇㬈㬉㬊㬋㬌㬍㬎㬏㬐㬑㬒㬓㬔㬕㬖㬗㬘㬙㬚㬛㬜㬝㬞㬟㬠㬡㬢㬣㬤㬥㬦㬧㬨㬩㬪㬫㬬㬭㬮㬯㬰㬱㬲㬳㬴㬵㬶㬷㬸㬹㬺㬻㬼㬽㬾㬿㭀㭁㭂㭃㭄㭅㭆㭇㭈㭉㭊㭋㭌㭍㭎㭏㭐㭑㭒㭓㭔㭕㭖㭗㭘㭙㭚㭛㭜㭝㭞㭟㭠㭡㭢㭣㭤㭥㭦㭧㭨㭩㭪㭫㭬㭭㭮㭯㭰㭱㭲㭳㭴㭵㭶㭷㭸㭹㭺㭻㭼㭽㭾㭿㮀㮁㮂㮃㮄㮅㮆㮇㮈㮉㮊㮋㮌㮍㮎㮏㮐㮑㮒㮓㮔㮕㮖㮗㮘㮙㮚㮛㮜㮝㮞㮟㮠㮡㮢㮣㮤㮥㮦㮧㮨㮩㮪㮫㮬㮭㮮㮯㮰㮱㮲㮳㮴㮵㮶㮷㮸㮹㮺㮻㮼㮽㮾㮿㯀㯁㯂㯃㯄㯅㯆㯇㯈㯉㯊㯋㯌㯍㯎㯏㯐㯑㯒㯓㯔㯕㯖㯗㯘㯙㯚㯛㯜㯝㯞㯟㯠㯡㯢㯣㯤㯥㯦㯧㯨㯩㯪㯫㯬㯭㯮㯯㯰㯱㯲㯳㯴㯵㯶㯷㯸㯹㯺㯻㯼㯽㯾㯿㰀㰁㰂㰃㰄㰅㰆㰇㰈㰉㰊㰋㰌㰍㰎㰏㰐㰑㰒㰓㰔㰕㰖㰗㰘㰙㰚㰛㰜㰝㰞㰟㰠㰡㰢㰣㰤㰥㰦㰧㰨㰩㰪㰫㰬㰭㰮㰯㰰㰱㰲㰳㰴㰵㰶㰷㰸㰹㰺㰻㰼㰽㰾㰿㱀㱁㱂㱃㱄㱅㱆㱇㱈㱉㱊㱋㱌㱍㱎㱏㱐㱑㱒㱓㱔㱕㱖㱗㱘㱙㱚㱛㱜㱝㱞㱟㱠㱡㱢㱣㱤㱥㱦㱧㱨㱩㱪㱫㱬㱭㱮㱯㱰㱱㱲㱳㱴㱵㱶㱷㱸㱹㱺㱻㱼㱽㱾㱿㲀㲁㲂㲃㲄㲅㲆㲇㲈㲉㲊㲋㲌㲍㲎㲏㲐㲑㲒㲓㲔㲕㲖㲗㲘㲙㲚㲛㲜㲝㲞㲟㲠㲡㲢㲣㲤㲥㲦㲧㲨㲩㲪㲫㲬㲭㲮㲯㲰㲱㲲㲳㲴㲵㲶㲷㲸㲹㲺㲻㲼㲽㲾㲿㳀㳁㳂㳃㳄㳅㳆㳇㳈㳉㳊㳋㳌㳍㳎㳏㳐㳑㳒㳓㳔㳕㳖㳗㳘㳙㳚㳛㳜㳝㳞㳟㳠㳡㳢㳣㳤㳥㳦㳧㳨㳩㳪㳫㳬㳭㳮㳯㳰㳱㳲㳳㳴㳵㳶㳷㳸㳹㳺㳻㳼㳽㳾㳿㴀㴁㴂㴃㴄㴅㴆㴇㴈㴉㴊㴋㴌㴍㴎㴏㴐㴑㴒㴓㴔㴕㴖㴗㴘㴙㴚㴛㴜㴝㴞㴟㴠㴡㴢㴣㴤㴥㴦㴧㴨㴩㴪㴫㴬㴭㴮㴯㴰㴱㴲㴳㴴㴵㴶㴷㴸㴹㴺㴻㴼㴽㴾㴿㵀㵁㵂㵃㵄㵅㵆㵇㵈㵉㵊㵋㵌㵍㵎㵏㵐㵑㵒㵓㵔㵕㵖㵗㵘㵙㵚㵛㵜㵝㵞㵟㵠㵡㵢㵣㵤㵥㵦㵧㵨㵩㵪㵫㵬㵭㵮㵯㵰㵱㵲㵳㵴㵵㵶㵷㵸㵹㵺㵻㵼㵽㵾㵿㶀㶁㶂㶃㶄㶅㶆㶇㶈㶉㶊㶋㶌㶍㶎㶏㶐㶑㶒㶓㶔㶕㶖㶗㶘㶙㶚㶛㶜㶝㶞㶟㶠㶡㶢㶣㶤㶥㶦㶧㶨㶩㶪㶫㶬㶭㶮㶯㶰㶱㶲㶳㶴㶵㶶㶷㶸㶹㶺㶻㶼㶽㶾㶿㷀㷁㷂㷃㷄㷅㷆㷇㷈㷉㷊㷋㷌㷍㷎㷏㷐㷑㷒㷓㷔㷕㷖㷗㷘㷙㷚㷛㷜㷝㷞㷟㷠㷡㷢㷣㷤㷥㷦㷧㷨㷩㷪㷫㷬㷭㷮㷯㷰㷱㷲㷳㷴㷵㷶㷷㷸㷹㷺㷻㷼㷽㷾㷿㸀㸁㸂㸃㸄㸅㸆㸇㸈㸉㸊㸋㸌㸍㸎㸏㸐㸑㸒㸓㸔㸕㸖㸗㸘㸙㸚㸛㸜㸝㸞㸟㸠㸡㸢㸣㸤㸥㸦㸧㸨㸩㸪㸫㸬㸭㸮㸯㸰㸱㸲㸳㸴㸵㸶㸷㸸㸹㸺㸻㸼㸽㸾㸿㹀㹁㹂㹃㹄㹅㹆㹇㹈㹉㹊㹋㹌㹍㹎㹏㹐㹑㹒㹓㹔㹕㹖㹗㹘㹙㹚㹛㹜㹝㹞㹟㹠㹡㹢㹣㹤㹥㹦㹧㹨㹩㹪㹫㹬㹭㹮㹯㹰㹱㹲㹳㹴㹵㹶㹷㹸㹹㹺㹻㹼㹽㹾㹿㺀㺁㺂㺃㺄㺅㺆㺇㺈㺉㺊㺋㺌㺍㺎㺏㺐㺑㺒㺓㺔㺕㺖㺗㺘㺙㺚㺛㺜㺝㺞㺟㺠㺡㺢㺣㺤㺥㺦㺧㺨㺩㺪㺫㺬㺭㺮㺯㺰㺱㺲㺳㺴㺵㺶㺷㺸㺹㺺㺻㺼㺽㺾㺿㻀㻁㻂㻃㻄㻅㻆㻇㻈㻉㻊㻋㻌㻍㻎㻏㻐㻑㻒㻓㻔㻕㻖㻗㻘㻙㻚㻛㻜㻝㻞㻟㻠㻡㻢㻣㻤㻥㻦㻧㻨㻩㻪㻫㻬㻭㻮㻯㻰㻱㻲㻳㻴㻵㻶㻷㻸㻹㻺㻻㻼㻽㻾㻿㼀㼁㼂㼃㼄㼅㼆㼇㼈㼉㼊㼋㼌㼍㼎㼏㼐㼑㼒㼓㼔㼕㼖㼗㼘㼙㼚㼛㼜㼝㼞㼟㼠㼡㼢㼣㼤㼥㼦㼧㼨㼩㼪㼫㼬㼭㼮㼯㼰㼱㼲㼳㼴㼵㼶㼷㼸㼹㼺㼻㼼㼽㼾㼿㽀㽁㽂㽃㽄㽅㽆㽇㽈㽉㽊㽋㽌㽍㽎㽏㽐㽑㽒㽓㽔㽕㽖㽗㽘㽙㽚㽛㽜㽝㽞㽟㽠㽡㽢㽣㽤㽥㽦㽧㽨㽩㽪㽫㽬㽭㽮㽯㽰㽱㽲㽳㽴㽵㽶㽷㽸㽹㽺㽻㽼㽽㽾㽿㿀㿁㿂㿃㿄㿅㿆㿇㿈㿉㿊㿋㿌㿍㿎㿏㿐㿑㿒㿓㿔㿕㿖㿗㿘㿙㿚㿛㿜㿝㿞㿟㿠㿡㿢㿣㿤㿥㿦㿧㿨㿩㿪㿫㿬㿭㿮㿯㿰㿱㿲㿳㿴㿵㿶㿷㿸㿹㿺㿻㿼㿽㿾㿿

秋は渋みのある色が向く様である。明度は中明度で彩度は中彩度。色相は中性色系の色が常識だが上下とも中性色の配合はやばつた感じをおこす。春のものより明度は高いものでも彩度を落して低くする。オレンジ色相④明度⑮彩度⑦、オリブグリーン⑩⑭③、バートンセンナー④⑭④、グレイッシュブルー⑩⑭④、コーヒ④⑭③、オールドローズ①⑤⑤。

冬の色はどうしても一般に地味になりがちであるが、暖色系を中心にして、うすい色でも温かみを忘れないように、ローズやグリーンでも黄みがったものの方がよいようである。明度は暗色つま低明度りで彩度も低彩度に色相は暖色系。ミッドナイトブルー⑬明度⑮彩度②、ダークブルー⑭⑭④、オリブ⑧⑮③、ローアンバー⑥⑭④、マルーン①⑮③、デ IPP カラーマイン①⑮③。

⑧。平安朝の女性の服装である五つ衣、十二単衣のかさねの色は、春、夏、秋、冬の季節の植物の自然色を連想して配色の組合せを實際化したもののよい例である。主として同色系の明度調と彩度調で巧みに対比してある点は後世のいかなる配色研究によつても追隨を許されないくらい洗練されている。





自然の情趣を色目とした十二単衣の襲の色目はよく靜的な季節の色を表わしていると思われるので記してみた。

日常生活の衣服では、夏期を除いて白布のまゝ用いることは殆んどあり得ないように、それだけ色の取扱い方は複雑になるのであつて、衣服の色の好みについてもいろいろの角度から検討されるわけであるが、ここでは衣服の色の好みに関する心理的調査と、好みに無意識に影響のある色の感じ、及び商品販売高、使用高の各種データーの抄録に終つてしまつたが衣服の色の好みは流行色という問題にも関係してくるので、これについては町にみられる洋装女性の衣服の色のデーターなどによつて次の機会にゆづらして頂こうと思つている。

